

## 岸和田だんじり祭りの運営の事例

奥 正孝 (大阪成蹊短期大学 観光学科)

キーワード：伝統祭事、地域文化、地域イベント、放送メディア

### 1. 岸和田だんじり祭りの歴史

現在行われている岸和田だんじり祭りは、社会構造の変化とともに、祭の発展や変化を繰り返してきた。

祭の発展や変化のきっかけとなった社会的状況の変化との相互関係を再確認することは、岸和田だんじり祭りの形態や特徴、性格を理解する上で重要となると考えている。そこで、岸和田だんじり祭りの歴史を江戸時代から現代まで、どのような経緯を経て、どのような影響を受け、現在の様な形式となったのかを確認する。

「岸和田だんじり祭りは、岸城神社と三の丸神社にかかわっている。寛文元年(1661)に社僧が記した泉州牛頭(ごず)天王神社記によると、岸城神社の前身である牛頭天王社は正平17年(1362)に京都の八坂神社より牛頭天王(素盞鳴尊)を勧請し、祀ったことが始まりである」と岸和田市史編纂委員会編(2000)で記されている。

一方、三の丸神社は、「にわか」や「狂言」などの芸事を演じ、「元禄16年(1703)9月27日に岸和田藩主岡部長泰が京都伏見稻荷大社から岸和田城の三の丸に勧請し、五穀豊穰を祈った稻荷祭がその始まりであると言われている。」岸和田市史編纂委員会編(1977)当初のだんじりは「5尺(約1.5m)に、2尺5寸の車付引壇尻にて太鼓うち一人乗り御祭相勤申候」とある。長持ちに車を付けその上で太鼓を打ち鳴らし神楽獅子を舞いながら町々を練り歩いたと想像される。



図1



図2

### 2. 放送メディアに登場した歴史

昭和30年代(1955)頃から昭和40年代(1965)にかけて、日本国内ではテレビが爆発的に普及した。そ

れに伴い、昭和47年(1972)にNHKの「ふるさとの歌祭り」をきっかけに岸和田祭りが全国的に紹介されるようになった。

岸和田市出身の(元)大毎広告の柿本哲次氏は、民間でだんじり番組の制作を立ち上げ、昭和49年(1972)9月から毎年、毎日放送を初めとして関西の民間放送局の持ち回りで岸和田だんじり祭りの番組を放送していた。「スポーツ番組」や「音楽番組」と同様に「イベントの中継番組」として放送されていた。岸和田市の隣町の泉大津市のだんじり祭りも平成18年(2006)から大津神社祭礼委員会を中心としてテレビ番組の制作を始めている。「だんじりの情報発信としての番組」の機能を果たし観光客誘致の一つの手段として考えている。筆者の知り合いの制作会社が、番組を制作することになったので筆者も関わるようになった。

テレビ大阪が開局した昭和57年(1982)の9月からは、毎年岸和田祭りの番組が放送されている。平成2年(1990)9月15日にNHK BS-1の放送で全国的に放送され、平成4年(1992)に日本テレビ放送の「スーパーテレビ～岸和田祭りの特集～」で全国にその迫力やだんじりの見事な彫刻を伝えることとなった。そうしたことで、見物人の数は年々増加し、平成15年(2003)の見物人数は、2日間合わせて64万人(岸和田警察署の発表による)にまで達した。また、「月刊レジャー産業2003.07」によると「知名度並びに動員数の高い日本全国の祭り30」の総動員数は、3,228万5千人で岸和田だんじり祭りは全国20位で64万人である。1位の青森のねぶたを除けば2位の博多祇園山笠は1日に換算すると20万人3位のさっぽろ雪まつりは、1日に換算すると30万人、岸和田だんじり祭りは1日に換算すると32万人で2位3位の祭りの動員数にひけをとっていないのである。このような経過で観光客が増え続けている。運営の役割が非常に大切になり、事故を未然に防ぐ役割として重要である。

### 3. 現代の岸和田だんじり祭りの運営の特色

現代の岸和田だんじり祭りのプロデュースの特色として大きく分けて三つに分けられる。①個々のだんじり曳行の運営 ②全体としての岸和田だんじり祭りの運営 ③有料観覧席の運営に分けることができる。

#### 1) 個々のだんじり曳行の運営は各町会である

岸和田だんじり祭りの組織形態が町会ごとに運営組織がつくられ、年齢層ごとに役割が決まっている。

#### 2) 全体としての岸和田だんじり祭りの運営

岸和田だんじり祭りの最高機関として年番がある。年番は、各町会の世話人の中から選ばれた人で構成され祭全体を統括し全責任を負う組織として絶対的な意味をもつ。その代表責任者を年番長という。年番制度が享和3年(1803)からスタートして約207年(平成22年 年番長は、第208代年番長)である。年番長は、現代のイベントで言えば総合プロデューサーで年番は、各部所のチーフディレクターにあたる。全体の曳行コースや曳行時間の決定そして市や警察との折衝などを仕事としている。

#### 危険を伴った祭りだからこそ安全重視の運営

岸和田だんじり祭りは、その勢いから多くの危険を伴う。それにより、岸和田だんじり祭りの三原則は、「自主曳行」「自主規制」「自主警備」とうたっています。このことは、祭り全体を「安全」に行うための原則であり、これら三原則の全ては「安全」ということについて関係している。岸和田だんじり祭りのプロデュースの注意点としてあげられる。

#### 3) 有料観覧席の運営は祭観覧席設置実行委員会である

放送メディアの登場で岸和田だんじり祭りも多様化され、実施側と観客側とを分離した形態に変化した。平成6年(1994)に岸和田商工会議所青年部から発足された「岸和田だんじり祭観覧席設置実行委員会」が有料観覧席の設営から、チケットの販売を実施してきた。安全確保のために有料観覧席が設けられ、人気が高まっていった。有料観覧席A席1,237席が設けられ、その向かい側のゴルフ場の駐車場にS席1,286席が設けられた。このように、だんじり曳行側以上に安全管理に重点をおく傾向に進んでいる。安全があつての観光となる。

### 4. 観光資源(産業)としての運営

イベントを実施された後、必ずお土産の購入ということが考えられる。岸和田だんじり祭りにおいては、

観光客のために実施してきた祭りではないので、お土産が皆無だった。先に紹介したように現代においては、テレビの放送ということがどれだけ影響を与えるかを私たちは、身をもって感じた。今までの祭りは「祭りをする者や地元の祭り好きの人間だけ」でよかったが、毎年観光客としての人数が増えている。全国的に放送されれば、遠い所から観光バスに乗って訪れる。観光地としての色々な受け皿を考えなくてはいけなくなった。その初めとして平成5年(1993)9月に岸和田市で「だんじり会館」が建設され開館した。岸和田だんじり祭りの日にも観光客を受け入れることが可能になった。そのため地元の商売人は、だんじりグッズ開発の研究を急いだ。

#### ■参考文献

- 平野繁臣(2004)『イベントの構造 時代の変化がイベントを変える』日本イベント産業振興協会
- 岸和田市史編纂委員会編(2000)『岸和田市史～第三巻 近世編～P459・』岸和田市
- 岸和田市史編纂委員会編(1977)『岸和田市史～第五巻 現代編～P556・P557・P558』岸和田市
- 石田信博(2004)『大阪商業大学商業史博物館紀要第五号～だんじり祭の運営組織と秩序～』
- 奥正孝(2007)『岸和田だんじり祭によるまちづくり』文芸社ビジュアルアート
- 奥正孝『伝統祭事の現場』
- 社僧(1661)『泉州牛頭天王社記』
- 日本観光振興協会資料((2006/02/20))『関西から観光立国を考える会意見交換会』日本観光研究学会関西支部研究会
- 岸和田市観光振興協会(2003)『岸和田のだんじり～岸和田だんじり会館開館10周年記念誌～』
- 『和泉誌9号10号～岸和田地車資料P34～』
- 『だんじり産業製品分類表』